

(説明)

「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」とは、いわゆる競争的研究資金制度の1つです。

現在、全部で225課題を実施中（研究期間2～5年）ですが、今年度から、緊急に調査研究の必要が生じた場合、年度途中からでも研究を開始できる仕組み（研究期間1年～）を創設しました。

1 「全国領域設定型研究のうちリスク管理型研究」

・ 遺伝子組換えトウモロコシBt10の定量分析法の開発

（研究機関：（独）食品総合研究所ほか2機関）

我が国で安全性未確認の遺伝子組換えトウモロコシBt10が米国等で誤って栽培され、我が国に輸入される米国产飼料用トウモロコシにも混入していることが平成17年6月に確認されました。

現在チェック体制を強化しているところですが、その方法は定性分析（混入の有無のみの把握）であり、定量分析（どの程度混入しているかの把握）が実施できない状況です。

このため、Bt10の定量分析法を開発します。

2 「緊急課題即応型調査研究」

① 火傷病侵入警戒に関わる緊急調査研究

（研究機関：（独）農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所ほか3機関）

平成17年7月のWTO勧告を受け、米国产りんごの火傷病に対する検疫措置が大幅に緩和されることとなりました。

火傷病の研究については、国内で未発生であることから、ほとんど手がつけられていません。このため、発生国の現地に技

術者を派遣して火傷病の診断、検出法等を修得するとともに、国内向けの診断、検出法を開発し、万全の体制をとります。

②木質ペレット燃焼灰の化学物質特性の解明及び利用促進技術の開発

（研究機関：岩手県林業技術センターほか2機関）

平成17年2月に、岩手県においてストーブの燃料に利用する木質ペレットの燃焼灰から、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の基準値を超える六価クロムが検出されました。その発生原因が特定されていないため、究明を行うとともに、六価クロムが混入しないようなペレット製造技術の開発を行います。

③輸入アサリの偽装表示対策技術開発

（研究機関：（独）水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所ほか1機関）

我が国で消費されているアサリの半数以上は輸入品ですが、スーパー等で販売されているアサリの産地表示について、疑問の声が上がっています。このため、DNAの解析により、アサリの原産地を判別する技術を開発します。